

### 1. 背景

- ① 平成27年9月に発生した関東・東北豪雨では、南会津町館岩の雨量観測所で24時間雨量が観測史上最多となる262mm/日(総雨量323mm)を記録し、南会津町を中心に甚大な被害が発生した。
- ② 館岩川や桧沢川では河川が氾濫し、住宅が浸水するなどし、多くの住民が自主避難をした。
- ③ また山間部の多くの箇所、山からの土砂の流出し、道路を塞いだりした。
- ④ しかし、地元消防団等の判断による避難誘導や水防活動により、幸いにも人的被害は無かった。
- ⑤ 近年頻発する集中豪雨等に対応するため、この教訓を生かす必要がある。
- ⑥ 次に発生するかもしれない豪雨の際も被害を最小限にするために、建設事務所(河川管理者・道路管理者)がすぐに出来る取り組みを行った。

### 2. 現状

- ① 南会津地方のような河川の上流に位置する地域では、豪雨の際は、水位が急上昇することがある。
- ② 雨量増加とともに、浸水害に加え土砂災害を意識しなければならない。
- ③ そのため、豪雨の際、避難行動をとるために必要な情報は、雨量と水位情報。
- ④ 雨量や水位情報を、市町村や水防団が知る手段は、
  - ◆ 河川流域総合情報システム(インターネット)
  - ◆ 他官庁の観測局データ(インターネット)
  - ◆ 河川ライブカメラ(インターネット、量水表)
  - ◆ パトロール(量水表) 等



### 3. 課題

- ① 建設事務所等が、市町村や水防団へ、適時的確な雨量情報や水位情報の情報を提供すること。
- ② 市町村が、住民へ、遅れること無く段階的に取るべき行動と避難勧告を発令すること。
- ③ 水防団が、雨量情報や水位情報から、その危険度を認識できるようにすること。
- ④ 建設事務所が、雨量情報や水位情報の意味と危険度、段階ごと取るべき行動について、関係機関及び住民に理解してもらうことに努めること。

### 4. 取り組み

#### 1 町村と建設事務所との防災行動計画(タイムライン)を作成し、訓練を行う。

#### 2 量水標の設置にあたって、地元水防団(消防団)と意見交換を行う。

平成27年9月関東・東北豪雨災害タイムライン(館岩川・国道352号沿い)	被害状況	避難行動状況	避難状況
2015.9.18 00:00	豪雨発生		
2015.9.18 01:00	雨量観測所(館岩川)で262mm/日(総雨量323mm)を記録		
2015.9.18 02:00	河川水位急上昇		
2015.9.18 03:00	館岩川氾濫		
2015.9.18 04:00	桧沢川氾濫		
2015.9.18 05:00	山間部土砂流出		
2015.9.18 06:00	道路閉鎖		
2015.9.18 07:00	住民避難		
2015.9.18 08:00	消防団活動		
2015.9.18 09:00	建設事務所対応		
2015.9.18 10:00	雨量減少		
2015.9.18 11:00	河川水位低下		
2015.9.18 12:00	道路再開		
2015.9.18 13:00	避難解除		
2015.9.18 14:00	被害調査		
2015.9.18 15:00	復旧作業		
2015.9.18 16:00	被害状況調査		
2015.9.18 17:00	避難者帰郷		
2015.9.18 18:00	被害状況調査		
2015.9.18 19:00	復旧作業		
2015.9.18 20:00	被害状況調査		
2015.9.18 21:00	復旧作業		
2015.9.18 22:00	被害状況調査		
2015.9.18 23:00	復旧作業		



### 5. おわりに

時期を失することのない避難行動のために必要なことは、地域の防災意識です。関東東北豪雨で人的被害がなかったことは、地域の防災意識があったからだと思います。この経験を生かし、タイムラインやハザードマップ等を活用しながら、町村と地元と連携した取り組み、事務所と建設業団体と連携した取り組みを続けることで、記憶を継承し、今後起こりうる災害に対し、被害を最小限に抑え、早期の復旧を可能にするものと考えます。